

これでいいのか 詩人達

詩人といえば偉そうに聞こえるが、世間的には「え、それなに？」と言われる程度だ。ごくごく一握りの著名詩人を除いて。つまり大多数の詩人たちは、オレは詩人と思つて、自尊の思いで満足している程度。人によつてそれでいいかもしれない。どんな人生送ろうと人の勝手だ。それに自己満足というのも、うまいグルメを食い歩いて一生を過ごす人の満足度と比べて遜色ないから。こう言うところの真摯な詩人の方々から、お叱りを受けるだろう。詩とはもつと尊厳なものだ、生と死と愛をテーマにした純粋な文化活動なのだ。

だけど、その文化って何？ 自己満足してりやそれが文化？

今、世界はどうなつてると思えますか。ご存知のとおり、世界のどこかの国のナラズ者の核の一発で世界大戦にだつてなる、地球は駄目になる、人も住めなくなる。でも、これは古いテーマだ、一九七〇〜八〇年代の。今は、数人の、怒つた教育もない人でも、やる気でテロをやると、水源

池の水が毒になる。原子力発電所が吹っ飛ぶ。ヘンな疫病がまん延させられて人類が死ぬ。これは皆文化という奴だ。科学発達したので、一人で、金もかけずに、ちよつと命さえ賭ければ世界が吹っ飛ばせ、人類皆殺しだつて出来る。もちろん自分も死ぬから、地球は砂漠のゼロになる。文化はもつと進みますよ。人を殺すための科学に人類はずつと狂奔し続けてきたから。

もちろん良い文化だつてあります。多くの人が骨身を削つて人や世の栄えや進化のための文化を培ってきたから。でも、この勝負は今のところ、人殺し文化の方が勝。即ち西欧に発して、物事を分析して武器と金儲けの種をホジクリ出し、それをノーベル賞なんかでも褒めて、結局は金儲けと人殺しにうまく利用される。民衆はそれを便利で金持ちになつたと錯覚して、死ぬ順番が来るのを待っている。

